

温州ミカンの施設栽培における収穫後のせん定による葉数確保						
〔要約〕 温州ミカンの施設栽培では、 <u>収穫後せん定</u> することで <u>葉数</u> を確保でき、 <u>樹勢</u> を維持できる。1月10日に <u>加温</u> する場合、9月上旬にせん定しても収量は確保できる。						
長崎県果樹試験場・常緑果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
平成7年度長崎県果樹試験場業務報告						

〔背景・ねらい〕

温州ミカンの施設栽培で、40年生「宮川早生」14本を供試し、収穫後の枝しょう管理の違いが加温後の発芽、開花、収量及び葉数に及ぼす影響を検討した。

〔成果の内容・特徴〕

- ① 夏季せん定をした樹の葉数は増加したが、夏季せん定をしなかった樹の葉数は、2年前の約60%に減少した（表1）。
- ② 9月上旬のせん定後に発生した夏枝母枝では、着花は少ないが、花重、子房重が重く、花は少なくても収量は確保できる（表2、3）。

〔成果の活用面・留意点〕

春枝利用の場合でも前年の着花（果）の多少によって、着花数が増減する場合がある。

[具体的データ]

表1 せん定方法と葉数、収量及び果数

せん定 時 期	収穫後の 水 管 理	葉数比 <sup>z</sup> (%)	収 量			果 数		
			1994年	1995年 (kg/樹)	収量比 <sup>y</sup> (%)	1994年	1995年 (個/樹)	果数比 <sup>x</sup> (%)
8月上旬	灌 水	121.3	140	105	75.2	2,280	948	41.6
9月上旬	灌 水	109.9	146	162	111.0	1,843	1,369	74.3
無	灌 水	101.5	147	168	114.2	2,019	1,295	64.1
無	節 水	57.5	134	173	129.0	2,042	1,468	71.9

<sup>z</sup> 1995年収穫前葉数/1993年収穫前葉数×100

<sup>y</sup> 1995年収量/1994年収量×100

<sup>x</sup> 1995年果数/1994年果数×100

表2 せん定方法、母枝の種類と発芽率及び着花程度

年度	せん定 時 期	収穫後の 水 管 理	母枝の 種 類	発芽節率 (%)	全節数当たり 着 花 率 (%)	発芽節数当たり 着 花 率 (%)	母枝当たり 着 花 数
1994	8. 6	灌 水	夏枝	63.9	70.7	108.7	6.1
	9. 6	灌 水	夏枝	49.9	41.7	81.7	3.4
	無せん定	灌 水	夏枝	48.9	63.2	104.9	6.6
	無せん定	節 水	春枝	88.3	134.0	151.3	9.1
1995	8. 9	灌 水	夏枝	78.3	109.2	137.0	7.6
	9. 5	灌 水	夏枝	77.6	60.4	80.4	4.3
	無せん定	灌 水	夏枝	64.6	77.9	119.0	5.2
	無せん定	節 水	春枝	66.1	98.4	152.6	6.3

表3 せん定方法、母枝の種類と花の大きさ

年度	せん定 時 期	収穫後の 水 管 理	母枝の 種 類	花 重 <sup>z</sup> (g)	子房重 <sup>z</sup> (g)	子 房 割 合 (%)
1994	8. 6	灌 水	夏枝	27.8	2.7	9.7
	9. 6	灌 水	夏枝	32.7	4.0	12.4
	無せん定	灌 水	夏枝	27.8	3.6	13.1
	無せん定	節 水	春枝	25.6	2.3	9.0
1995	8. 9	灌 水	夏枝	26.7	3.3	12.4
	9. 5	灌 水	夏枝	38.2	5.5	14.4
	無せん定	灌 水	夏枝	34.2	4.6	13.5
	無せん定	節 水	春枝	27.7	3.9	14.5

<sup>z</sup> 50花当たり重量

[その他]

研究課題名：ハウスみかんの樹勢強化と休眠機構の解明

予算区分：県単

研究期間：平成7年度（平成6年～9年）

研究担当者：濱口壽幸，岸野 功

発表論文等：平成7年度 長崎県果樹試験場業務報告。

残された問題点：せん定方法、時期及び加温時期と加温後の発芽、開花や収量、葉数との関係について、引き続き検討する必要がある。